

No.2 別紙

1 活動名 乗鞍高原観光資源視察

2 研修の目的

(1) 本市における課題

新型コロナウイルス感染症まん延防止の観点から、非常事態宣言が発出され、「信州の観光はおやすみ中」として、海外および県外の観光客は激減し、本市の観光産業は大打撃を受けている。ポストコロナの時代を見据え、市内市外から人を呼び込む新観光戦略が必要と考える。乗鞍高原の最新の観光スポット、学校登山で人気の乗鞍岳の現状等について調査し、乗鞍の魅力进行调查、再発見する。

(2) 研修の必要性 ポストコロナを見据え、人を呼び込む新観光戦略が必要

(3) 研修項目 「松本市のめざすポストコロナの観光戦略～乗鞍編」

3 研修内容

(1) 日時 令和2年7月1日(火)

(2) 会場 乗鞍高原～大黒岳(乗鞍観光センター)

(3) 出席者 1名 神津ゆかり

(4) 内容

ア 乗鞍高原の観光スポット案内 一ノ瀬園地、三本滝、善五郎の滝、番所大滝、乗鞍BASEいがやレクレーションセンターほか

イ 乗鞍岳登山 肩の小屋口～畳平～大黒岳～肩の小屋

(5) 成果・所感等

当日は梅雨前線が抜けきらず、暴風と横殴りの雨という天候。雨は小降りになることもあったが、当初予定していた大黒岳(2772m)を目指すのは中止した。乗鞍観光センター周辺の観光スポットから、開通したばかりのエコラインを経て、大雪渓駐車場から長野岐阜県境を超え、畳平駐車場(乗鞍バスターミナル)、岐阜の山小屋白雲荘、お花畑と鶴ヶ池をぐるっと回って2時間ほど歩いた。

「乗鞍」一帯は、冬はスキー、夏は登山で人気の観光スポットで、乗鞍岳は、標高3000mを気軽に体験できる北アルプスの入門コースで、県内の中学校が登山で訪れる。毎年7月1日には「乗鞍エコライン」が解除となり、夏スキーを楽しむスキーヤーで賑わう。子育てが始まったばかりのライチョウに会えるのも魅力。澄んだ池のまわりには花畑も美しい。

コロナ後、地元の市民が自分たちの地域の魅力に気づき、発信する。転換期にしていけたら、大きな意味がある。

空に一番近いバイシクルロードを駆けあがる「乗鞍ヒルクライム」は、今年度はコロナで中止となりましたが、国内ヒルクライムのパイオニアとして、毎年4000名のエントリーがある。「サイクリスト」の聖地、松本をアピールする必要がある。

他地域から移住し、観光業で働く方との意見交換では、このエリアの魅力、潜在力を感じた。

4 政務活動費

(1) 使途項目 研究研修費

(2) 支出額	ガソリン代(往復93km)	3,441円
	ガイド料	20,000円
	合計	23,441円